

平成29年8月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年10月12日

上場会社名 株式会社ジンス 上場取引所 東
 コード番号 3046 URL <https://corp.jins.com/jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 仁
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 山脇 幹也 (TEL) 03-5275-7001
 定時株主総会開催予定日 平成29年11月27日 配当支払開始予定日 平成29年11月28日
 有価証券報告書提出予定日 平成29年11月27日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年8月期の連結業績(平成28年9月1日～平成29年8月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年8月期	50,451	9.2	5,402	46.7	5,227	45.0	2,767	39.7
28年8月期	46,189	13.5	3,683	2.8	3,604	3.6	1,980	4.1
(注) 包括利益	29年8月期		2,882百万円(76.2%)		28年8月期		1,635百万円(△19.9%)	

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
29年8月期	115.44	—	16.9	18.5	10.7
28年8月期	82.61	—	13.6	14.2	8.0

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円 銭	
29年8月期	30,354	17,515	57.7	730.52	
28年8月期	26,232	15,232	58.1	635.29	
(参考) 自己資本	29年8月期		17,515百万円	28年8月期	15,232百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
29年8月期	6,339	△2,406	△1,548	6,860
28年8月期	2,449	△2,629	△116	4,349

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額(合計)	配当性向(連結)	純資産配当率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
28年8月期	—	0.00	—	25.00	25.00	599	30.3	4.1
29年8月期	—	0.00	—	36.00	36.00	863	31.2	5.3
30年8月期(予想)	—	0.00	—	48.00	48.00		30.3	

3. 平成30年8月期の連結業績予想(平成29年9月1日～平成30年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	26,210	10.0	2,600	28.7	2,400	26.8	1,500	67.7	62.56
通期	55,360	9.7	6,600	22.2	6,200	18.6	3,800	37.3	158.49

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
 ② ①以外の会計方針の変更： 無
 ③ 会計上の見積りの変更： 無
 ④ 修正再表示： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年8月期	23,980,000株	28年8月期	23,980,000株
② 期末自己株式数	29年8月期	3,491株	28年8月期	3,491株
③ 期中平均株式数	29年8月期	23,976,509株	28年8月期	23,976,509株

(参考) 個別業績の概要

1. 平成29年8月期の個別業績（平成28年9月1日～平成29年8月31日）

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年8月期	42,295	3.5	5,681	45.4	5,723	43.8	1,681	△30.5
28年8月期	40,872	10.9	3,906	0.7	3,981	2.1	2,418	2.7
	1株当たり 当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益					
	円 銭		円 銭					
29年8月期	70.14		—					
28年8月期	100.89		—					

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年8月期	25,714	17,013	66.2	709.58
28年8月期	24,544	16,618	67.7	693.12

(参考) 自己資本 29年8月期 17,013百万円 28年8月期 16,618百万円

2. 平成30年8月期の個別業績予想（平成29年9月1日～平成30年8月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	21,500	7.5	2,560	18.0	1,400	△0.2	58.39
通 期	45,300	7.1	6,000	4.8	3,550	111.1	148.06

※ 決算短信は監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理性があると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社グループとして約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の6ページ「今後の見通し」をご覧ください。

・当社は、平成29年10月13日にアナリスト及び機関投資家向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料につきましては、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	4
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	5
(4) 今後の見通し	6
(5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	6
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	6
3. 連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 連結貸借対照表	7
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	11
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(セグメント情報)	14
(1株当たり情報)	16
(重要な後発事象)	16
4. その他	17
(1) 役員の変動	17

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

①経営成績の概況

当連結会計年度(平成28年9月1日～平成29年8月31日)における国内経済は、好調な企業業績に伴う設備投資回復の兆し、雇用、所得環境の改善、消費者マインドの持ち直しにより緩やかな回復基調が続いております。一方、世界経済に目を向けると、米国における政策運営、中国経済の動向、地政学的リスクの高まりなど、我が国の景気が下押しされる懸念もあり、先行きは不透明な状況であります。

また、国内眼鏡小売市場(視力矯正眼鏡)は、平成28年3月以降、前年同期比マイナスの傾向が継続しており、足元は弱含みに推移しております。

このような市場環境の中で、当社グループのアイウェア事業では、引き続き重要な経営課題と掲げている商品戦略の再構築、店舗オペレーションの改善などの取り組みを重点的に推進いたしました。また、店舗戦略については、従来のショッピングモール形態での出店を継続しながらも、郊外ロードサイド型店舗開発における社内体制を強化し、出店加速に向けた基盤を強固なものいたしました。

国内アイウェア事業において更なる成長を実現していくためには、商品力の向上、接客力及び店舗マネジメント力の強化が必要不可欠と認識しており、引き続きこれらの諸課題に取り組んでまいります。

当連結会計年度末におけるアイウェア専門ショップの店舗数は、国内直営店323店舗(出店23店舗、退店7店舗)、中国直営店103店舗(出店25店舗、退店4店舗)、米国直営店4店舗(出店3店舗、退店なし)の合計430店舗となりました。

売上高総利益率につきましては、円高による効果もありましたが、フレームの生産工程の改善に取り組み、前年同期比0.5ポイント増の75.2%となりました。

売上高販売管理費比率につきましては、マス広告の見直しによる広告宣伝費の大幅な抑制が図れたこと、「JINS MEME(ジズ・ミーム)」の開発費用を適切にコントロールしたこと等により、前年同期比2.3ポイント減となる64.5%となりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高50,451百万円(前年同期比9.2%増)、営業利益5,402百万円(前年同期比46.7%増)、経常利益5,227百万円(前年同期比45.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益2,767百万円(前年同期比39.7%増)と増収増益となりました。

なお、当社は平成29年4月1日付にて、「株式会社ジズ」に商号変更いたしました。

商号をブランド名と統一することにより、消費者に対するブランド認知の一層の向上を図り、グローバルブランドとして定着、確立させることを目的として商号を変更いたしました。

②セグメント業績の概況

セグメント別の売上高は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成28年9月1日 至 平成29年8月31日)	構成比	前年同期比
国内アイウェア事業	42,206百万円	83.7%	108.0%
海外アイウェア事業	5,203百万円	10.3%	125.8%
その他	3,042百万円	6.0%	102.0%
合計	50,451百万円	100.0%	109.2%

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 「その他」の区分には、メンズ雑貨事業、レディース雑貨事業等の収入が含まれております。

〈国内アイウェア事業〉

国内アイウェア事業につきましては、外部のプロダクトデザイナー監修のもと、大幅にリニューアルした定番商品や新たにデザインしたスポット商品を投入するなど、質の高い商品を継続的に展開した結果、通期に亘り既存店増収を達成することができました。

平成29年3月より、3プライス制の新価格体系を導入したことにより、暫く低迷していた客数の伸張に向けた挺入れを図りました。また、春節、花見シーズンにおける訪日外国人のインバウンド需要も取り込みました。

一方、「JINS MEME (ジズ・ミーム)」につきましては、引き続き先行投資段階であるものの、大手スポーツクラブと「JINS MEME RUN (ジズ・ミーム ラン)」を活用したヘルスケアソリューションの共同開発、集中力の可視化がもたらすパフォーマンス・生産性の改善等、事業化が期待される革新的な取組みを継続いたしました。

店舗展開につきましては、郊外ロードサイド店舗への出店を継続した他、メガネと様々なカルチャーを融合した旗艦店「ジズ渋谷店」(平成29年5月)、アイウェアのグローバルトレンドを発信する「ジズ原宿店」(平成29年7月)等、当社ブランドイメージ構築に資する店舗を出店改装し、国内直営店舗数は323店舗となりました。

以上の結果、国内アイウェア事業の業績は、売上高42,206百万円(前年同期比8.0%増)、営業利益5,698百万円(前年同期比47.3%増)となりました。

〈海外アイウェア事業〉

海外アイウェア事業につきましては、中国における競争環境が激しさを増しているものの、出店環境等は引き続き良好に推移し、順調に事業の拡大が続いており、同地域における黒字の定着が図れたと認識しております。

また、米国においては、米国向けにデザインした商品の投入、店舗オペレーションの改善等早期黒字化に向け取り組んでまいります。

店舗展開につきましては、海外直営店舗数は107店舗となりました。

以上の結果、海外アイウェア事業の業績は、売上高5,203百万円(前年同期比25.8%増)、営業損失△327百万円(前年同期は営業損失△279百万円)となりました。

〈その他〉

その他につきましては、メンズ雑貨事業及びレディース雑貨事業等の収入により構成されております。

店舗展開につきましては、メンズ雑貨専門ショップ20店舗(出店2店舗、退店なし)、レディース雑貨専門ショップ20店舗(出店なし、退店2店舗)となりました。

以上の結果、その他の業績は、売上高3,042百万円(前年同期比2.0%増)、営業利益31百万円(前年同期比67.0%減)となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の資産、負債及び純資産の状況は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	平成28年8月期末	平成29年8月期末	増減	増減率(%)
総資産	26,232	30,354	4,122	15.7
負債	10,999	12,838	1,838	16.7
純資産	15,232	17,515	2,283	15.0

(イ) 資産

流動資産は、15,696百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,196百万円増加いたしました。

これは主に、現金及び預金が2,511百万円増加したこと、売掛金が314百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、14,559百万円となり、前連結会計年度末に比べ950百万円増加いたしました。

これは主に、新規出店等に伴い建物及び構築物等の有形固定資産が212百万円増加したこと、敷金及び保証金が303百万円増加したこと、ECアプリケーション開発等によりソフトウェア等の無形固定資産が273百万円増加したことによるものであります。

繰延資産は、98百万円となり、前連結会計年度末に比べ24百万円減少いたしました。

これは主に、開業費の償却を行ったことによるものであります。

以上により、総資産は、30,354百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,122百万円増加いたしました。

(ロ) 負債

流動負債は、9,327百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,681百万円増加いたしました。

これは主に、未払法人税等が614百万円が増加したこと、買掛金が439百万円増加したことによるものであります。

固定負債は、3,510百万円となり、前連結会計年度末に比べ156百万円増加いたしました。

これは主に、長期未払金が360百万円増加したことによるものであります。

以上により、負債合計は、12,838百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,838百万円増加いたしました。

(ハ) 純資産

純資産合計は、17,515百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,283百万円増加いたしました。

これは主に、親会社株主に帰属する当期純利益2,767百万円の計上があったことによるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

なお、当連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高は6,860百万円となりました。

(単位：百万円)

	平成28年8月期	平成29年8月期	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	2,449	6,339	3,889
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,629	△2,406	222
財務活動による キャッシュ・フロー	△116	△1,548	△1,431

(イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に比べ3,889百万円収入が増加し、6,339百万円の収入となりました。

これは主に、税金等調整前当期純利益4,465百万円の計上、減価償却費2,217百万円の計上によるものであります。

(ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に比べ222百万円収入が増加し、2,406百万円の支出となりました。

これは主に、店舗の出店及び改装に伴う有形固定資産の取得による支出1,667百万円、敷金及び保証金の差入による支出457百万円、ECアプリケーション開発等に伴う無形固定資産の取得による支出214百万円によるものであります。

(ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に比べ1,431百万円収入が減少し、1,548百万円の支出となりました。

これは主に、短期借入金の純増額378百万円による収入の増加はあったものの、リース債務の返済による支出683百万円、配当金の支払額599百万円によるものであります。

(ニ) キャッシュ・フロー関連指標の推移

当社グループのキャッシュ・フロー関連指標の推移は、次のとおりです。

	平成25年8月期	平成26年8月期	平成27年8月期	平成28年8月期	平成29年8月期
自己資本比率(%)	56.1	59.7	56.7	58.1	57.7
時価ベースの自己資本比率(%)	382.7	346.6	550.4	434.2	509.6
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(%)	87.2	131.1	108.4	229.4	89.4
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	93.5	74.0	75.8	28.6	45.2

自己資本比率：自己資本/総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額/総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債/キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー/利払い

(注) 1 株式時価総額は、期末株価終値×発行済株式総数により算出しております。

(注) 2 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち、利子を支払っているすべての負債を対象としております。

(注) 3 キャッシュ・フロー及び利払いは、連結キャッシュ・フロー計算書に計上されている「営業活動によるキャッシュ・フロー」及び「利息の支払額」を用いております。

(4) 今後の見通し

今後の見通しにつきましては、国内経済は、引き続き緩やかな回復基調が継続しているものの、中国経済の動向、地政学リスクの高まり等、世界経済を取り巻く環境は依然として予断を許さない状況にあるといえます。

このような経営環境のもとで、当社グループが国内アイウェア事業において、さらなる成長を実現していくためには、接客力及び商品力の向上を最重要課題として取り組み、既存店の増収を確かなものとしていく方針です。

店舗展開に関しては、郊外ロードサイドへの出店を加速してまいります。

また、「JINS MEME (ジズ ミーム)」に関しましては、引き続き投資の管理を厳格に行いながらも、次世代モデルの開発を含めた革新的な取り組みを継続してまいります。

一方、海外アイウェア事業に関しましては、中国事業は、競争環境が激しさを増しているものの、既存店の着実な増収及び適切な新規出店を行うことで収益性の向上に取り組んでまいります。米国事業は、米国向けにデザインした商品を継続的に投入する等、地域に適したビジネスモデルを構築しながら収益性の改善に取り組んでまいります。

以上により、平成30年8月期の通期連結業績予想を、売上高55,360百万円、営業利益6,600百万円、経常利益6,200百万円、親会社株主に帰属する当期純利益3,800百万円としております。

(5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社グループは、中長期的な株主価値の増大を最重点課題と認識し、将来の事業展開に備えた適切な内部留保の充実と、株主の皆様への継続的かつ安定的な配当を実現していくことを基本方針とし、連結配当性向30%を目処に配当を実施しております。

当期の配当については、平成29年4月5日付「平成29年8月期 期末配当予想の修正に関するお知らせ」に記載のとおり、期末配当について1株当たり36円としております。

次期の配当については、上記方針に鑑み1株当たり48円の期末配当を予定しております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループでは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、IFRSの適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当連結会計年度 (平成29年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,349	6,860
受取手形及び売掛金	2,990	3,305
商品及び製品	4,221	4,310
原材料及び貯蔵品	133	196
繰延税金資産	174	232
その他	631	790
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	12,499	15,696
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,380	11,074
減価償却累計額	△4,194	△4,945
建物及び構築物(純額)	6,186	6,128
機械装置及び運搬具	83	104
減価償却累計額	△23	△37
機械装置及び運搬具(純額)	60	66
工具、器具及び備品	1,347	1,371
減価償却累計額	△867	△892
工具、器具及び備品(純額)	480	478
土地	14	14
リース資産	1,579	1,949
減価償却累計額	△744	△841
リース資産(純額)	835	1,108
建設仮勘定	103	96
有形固定資産合計	7,680	7,893
無形固定資産		
リース資産	914	724
その他	679	1,142
無形固定資産合計	1,593	1,867
投資その他の資産		
投資有価証券	457	457
長期貸付金	210	363
繰延税金資産	152	174
敷金及び保証金	3,440	3,744
その他	73	59
投資その他の資産合計	4,334	4,799
固定資産合計	13,608	14,559
繰延資産		
開業費	123	98
繰延資産合計	123	98
資産合計	26,232	30,354

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当連結会計年度 (平成29年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,215	1,655
短期借入金	1,426	1,900
1年内返済予定の長期借入金	509	386
未払金及び未払費用	2,546	2,512
リース債務	678	692
未払法人税等	746	1,360
未払消費税等	166	408
資産除去債務	20	20
その他	336	390
流動負債合計	7,645	9,327
固定負債		
長期借入金	1,855	1,560
リース債務	1,148	1,127
資産除去債務	196	187
その他	153	635
固定負債合計	3,353	3,510
負債合計	10,999	12,838
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,202	3,202
資本剰余金	3,179	3,179
利益剰余金	8,999	11,167
自己株式	△1	△1
株主資本合計	15,379	17,547
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△147	△32
その他の包括利益累計額合計	△147	△32
純資産合計	15,232	17,515
負債純資産合計	26,232	30,354

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年9月1日 至 平成28年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年9月1日 至 平成29年8月31日)
売上高	46,189	50,451
売上原価	11,661	12,508
売上総利益	34,528	37,942
販売費及び一般管理費	30,844	32,540
営業利益	3,683	5,402
営業外収益		
受取利息	3	3
受取賃貸料	15	20
為替差益	58	19
補助金収入	—	15
その他	22	13
営業外収益合計	100	72
営業外費用		
支払利息	86	142
支払手数料	25	30
開業費償却	37	34
その他	29	40
営業外費用合計	179	247
経常利益	3,604	5,227
特別損失		
倉庫移転費用	—	66
固定資産除却損	194	227
減損損失	33	398
店舗閉鎖損失	35	44
その他	10	25
特別損失合計	273	762
税金等調整前当期純利益	3,331	4,465
法人税、住民税及び事業税	1,203	1,778
法人税等調整額	147	△80
法人税等合計	1,350	1,697
当期純利益	1,980	2,767
非支配株主に帰属する当期純利益	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	1,980	2,767

連結包括利益計算書

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成27年9月1日 至 平成28年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年9月1日 至 平成29年8月31日)
当期純利益	1,980	2,767
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△344	114
その他の包括利益合計	△344	114
包括利益	1,635	2,882
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,635	2,882
非支配株主に係る包括利益	—	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 平成27年9月1日 至 平成28年8月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	3,202	3,179	7,402	△1	13,782	197	197	13,979
当期変動額								
剰余金の配当			△383		△383			△383
親会社株主に帰属する当期純利益			1,980		1,980			1,980
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△344	△344	△344
当期変動額合計	—	—	1,596	—	1,596	△344	△344	1,252
当期末残高	3,202	3,179	8,999	△1	15,379	△147	△147	15,232

当連結会計年度(自 平成28年9月1日 至 平成29年8月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	3,202	3,179	8,999	△1	15,379	△147	△147	15,232
当期変動額								
剰余金の配当			△599		△599			△599
親会社株主に帰属する当期純利益			2,767		2,767			2,767
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						114	114	114
当期変動額合計	—	—	2,168	—	2,168	114	114	2,283
当期末残高	3,202	3,179	11,167	△1	17,547	△32	△32	17,515

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成27年9月1日 至 平成28年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年9月1日 至 平成29年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	3,331	4,465
減価償却費	2,160	2,217
減損損失	33	398
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	△0
受取利息及び受取配当金	△3	△3
支払利息	86	142
支払手数料	25	30
為替差損益(△は益)	33	△39
固定資産除却損	194	227
店舗閉鎖損失	35	44
売上債権の増減額(△は増加)	△370	△298
たな卸資産の増減額(△は増加)	△571	△100
その他の資産の増減額(△は増加)	△247	△11
仕入債務の増減額(△は減少)	△205	425
未払消費税等の増減額(△は減少)	△300	227
未払金の増減額(△は減少)	△302	△297
未払費用の増減額(△は減少)	133	117
その他の負債の増減額(△は減少)	27	162
その他	97	52
小計	4,157	7,760
利息及び配当金の受取額	3	3
利息の支払額	△85	△140
手数料の支払額	△25	△30
リース契約解除に伴う支払額	△8	△0
法人税等の支払額	△1,592	△1,253
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,449	6,339
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,352	△1,667
無形固定資産の取得による支出	△508	△214
貸付けによる支出	△97	△182
貸付金の回収による収入	10	16
関係会社株式の取得による支出	△209	-
投資有価証券の取得による支出	△48	-
出資金の払込による支出	△0	-
敷金及び保証金の差入による支出	△548	△457
敷金及び保証金の回収による収入	123	98
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,629	△2,406

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年9月1日 至 平成28年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年9月1日 至 平成29年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	605	378
長期借入れによる収入	1,516	102
長期借入金の返済による支出	△1,159	△519
割賦債務の返済による支出	△116	△226
リース債務の返済による支出	△577	△683
配当金の支払額	△383	△599
財務活動によるキャッシュ・フロー	△116	△1,548
現金及び現金同等物に係る換算差額	△243	126
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△540	2,511
現金及び現金同等物の期首残高	4,889	4,349
現金及び現金同等物の期末残高	4,349	6,860

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

1 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは販売体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、「国内アイウェア事業」及び「海外アイウェア事業」の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

当社グループは主に眼鏡等を販売しており、「国内アイウェア事業」においては(株)ジズが、「海外アイウェア事業」においては各国の現地法人がそれぞれ店舗及びインターネット等における眼鏡等の販売を担当しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成において採用している会計処理の方法と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上高又は振替高は主に市場価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成27年9月1日 至 平成28年8月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	国内 アイウェア 事業	海外 アイウェア 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	39,072	4,136	43,208	2,981	—	46,189
セグメント間の内部売上高又は振替高	114	—	114	—	△114	—
計	39,186	4,136	43,322	2,981	△114	46,189
セグメント利益又は損失(△)	3,868	△279	3,589	94	—	3,683
セグメント資産	18,795	4,531	23,327	6,522	△3,617	26,232
その他の項目						
減価償却費	1,767	322	2,089	70	—	2,160
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	2,531	761	3,292	185	—	3,478

(注) 1 「その他」の区分は、メンズ雑貨事業、レディース雑貨事業等であります。

2 セグメント資産の調整額△3,617百万円には、投資と資本の相殺消去△2,893百万円、債権債務の相殺消去△715百万円等が含まれております。

3 セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成28年9月1日 至 平成29年8月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	調整額 (注)2	連結 財務諸表 計上額 (注)3
	国内 アイウェア 事業	海外 アイウェア 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	42,206	5,203	47,409	3,042	—	50,451
セグメント間の内部売上高又は振替高	88	—	88	—	△88	—
計	42,295	5,203	47,498	3,042	△88	50,451
セグメント利益又は損失(△)	5,698	△327	5,371	31	—	5,402
セグメント資産	24,125	4,633	28,759	5,425	△3,830	30,354
その他の項目						
減価償却費	1,727	427	2,154	62	—	2,217
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	2,373	887	3,260	73	—	3,333

(注) 1 「その他」の区分は、メンズ雑貨事業、レディース雑貨事業等であります。

2 セグメント資産の調整額△3,830百万円には、投資と資本の相殺消去△2,893百万円、債権債務の相殺消去△933百万円等が含まれております。

3 セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 平成27年9月1日 至 平成28年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年9月1日 至 平成29年8月31日)
1株当たり純資産額	635円29銭	730円52銭
1株当たり当期純利益金額	82円61銭	115円44銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当連結会計年度 (平成29年8月31日)
連結貸借対照表の純資産の部の 合計額 (百万円)	15,232	17,515
純資産の部の合計額から控除 する金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	15,232	17,515
1株当たり純資産額の算定に用 いられた期末の普通株式の数 (株)	23,976,509	23,976,509

3 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成27年9月1日 至 平成28年8月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年9月1日 至 平成29年8月31日)
連結損益計算書上の当期純利益 (百万円)	1,980	2,767
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	1,980	2,767
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式の期中平均株式数 (株)	23,976,509	23,976,509

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4. その他

(1) 役員の変動

①代表取締役の変動

該当事項はありません。

②その他の役員の変動

(イ) 新任取締役候補

取締役(社外)

國領 二郎(現 慶應義塾常任理事、慶應義塾大学総合政策学部教授)

(ロ) 新任監査役候補

監査役(社外)

太田 諭哉(現 株式会社スパイラル・アンド・カンパニー代表取締役社長)